



京大広報

No. 528

1998. 10



異国情緒の漂う農場本館—関連記事本文574ページ—

目次

〈大学の動き〉

- 長尾総長のカナダ訪問571
- 部局長の交替等571
- 討論集会「京都大学の教育を考える（第三回）
—学部教育から見た教養教育について—」の開催...571

〈医療技術短期大学の動き〉

- 医療技術短期大学部説明会572

〈日誌〉

-572

〈訃報〉

-573

〈紹介〉

- 大学院農学研究科附属農場574

〈文化交流〉

- フロリダの自然とアメリカの活力 前川 寛...576

〈保健コーナー〉

- 生活習慣病を考える —ヒトの進化と糖尿病— ...577

〈洛書〉

- アルツハイマー病のはなし 三好功峰...579

〈公開講座〉

- 大学院エネルギー科学研究科公開講座
エネルギーと社会・環境・科学580
- 大学院教育学研究科公開シンポジウム
(大学院重点化改組記念行事)
意味の生成と転換—子ども・学校・社会— ...581
- 総合博物館公開講座
「人間と自然の共生をめぐって」582
- 防災研究所公開講座（第9回）
“災害の予知と予測Ⅱ”—その現状と将来の展望— ...583

〈話題〉

- 国立七大学総合体育大会で総合準優勝、近畿地区国立大学体育
大会でも男子総合で準優勝、女子総合も3位に入賞！ ...584

〈お知らせ〉

- 平成10年度附属図書館秋季展示会
—古地図が示す世界認識—
室賀信夫コレクション古地図展の開催585

大学の動き

長尾総長のカナダ訪問

長尾 真総長は、8月6日からカナダのトロント、同月9日からモントリオールに出張し、同月16日に帰国した。

トロントでは、トロント大学を訪問し、本学と1991年に交換した「学術交流に関する一般的覚書」の更新を行うとともに、Heather MUNROE-BLUM 副学長をはじめ関係教官と懇談した。

モントリオールでは、本学と1994年に「学術交流に関する一般的覚書」を交換しているケベック州大学学長校長協議会（ケベック州内の18大学・研究所から成る）のうち、マギル大学及びモントリオール大学を訪問し、マギル大学 Bernard J. SHAPIRO 学

長並びにモントリオール大学 Robert LACROIX 学長の両学長をはじめ関係教官と懇談し、両大学における教育・研究の現状及び本学との学術交流に関して意見交換を行った。

三大学ともに、本学との共同研究、学生の交流をこれまで以上に積極的に行いたい意向を持ち、席上いくつかの案も提示された。

なお、モントリオールでは、The 17th International Conference on Computational Linguistics (COLING '98) 及びThe 36th Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics (ACL '98) へも出席した。

部局長の交替等

(新任)

高等教育教授システム開発センター長

梶田 毅一高等教育教授システム開発センター長の辞任に伴い、その後任として荻野文丸大学院工学研究科教授（化学工学専攻化学工学基礎講座担当）が10月1日高等教育教授システム開発センター長に任命された。任期は平成12年9月30日までである。



(再任)

大学院医学研究科長・医学部長

本庶 佑大学院医学研究科教授（分子医学系専攻分子生体統御学講座担当）が、10月1日大学院医学研究科長・医学部長に再任された。任期は平成12年9月30日までである。

討論集会「京都大学の教育を考える（第三回）」

「一学部教育から見た教養教育について」の開催

一昨年、昨年に続き、討論集会「京都大学の教育を考える（第三回）一学部教育から見た教養教育について」が、8月20日（木）～21日（金）の1泊2日の日程で、総長をはじめ全学の教職員約200名が参加して開催された。

本学では総合人間学部を除いて大学院重点化が行われ、大学教育はますます高度化、深化、細分化する傾向にある。一方で、新しい学際領域の開拓が進

み、これまでの枠組みとは違う新たな枠組みで大学教育が模索されようとしている。そうした中で、学部教育と教養教育をどのように連携させていくかが大きな課題となってきた。

このような状況を背景に、1日目のパネルディスカッションでは教育・法・医・工学部の教官から各々の専門分野から見た教養教育の在り方についての提言があり、教養教育の現状と改善について参加

者から活発な議論がなされた。イブニングセッションでは参加者の希望により4つのグループに分かれて、少人数セミナーアンケートの集計結果の検討や、新しい教養教育の提言等が夜遅くまで行われた。なかでも今年度から開講された少人数セミナーの担当教官と受講学生への意識調査報告では、全体として、少人数セミナーという新しい試みが双方から積極的に支持されていることが明らかにされた。2日目の全体会議では、各グループからの報告の後、質疑応答と取りまとめが行われた。

今回の討論集会で得られた成果が、今後の教養教

育の改善に向けた検討に生かされることが期待される。



医療技術短期大学の動き

医療技術短期大学部説明会

医療技術短期大学部では、7月23日(木)午後1時30分より5時まで、医療技術者を志す高等学校2・3年生及び進路指導担当教諭を対象に、大学説明会を開催した。

説明会では、まず京都教育文化センター(京都市左京区聖護院川原町)において、参加者全員に本短期大学部の特色、入試概要、各学科の教育内容を、資料及びスライドを用いて説明した。次に学内施設見学として、6グループに分かれて、約1時間学内見学を実施した。最後に各学科ごとに分かれて、学生生活や入試等に関する一般的な相談に応じるなどの個人相談を行い、参加者と教官との懇談の機会を設けた。

この説明会の参加者は、高校生221名、進路指導担当教諭13名であった。

また、参加者に対しこの説明会に対するアンケートを行った結果、参加者の90.6%が回答し、そのうち96.0%より「説明会が参考になった」との回答を得た。



人形を使った母性看護学の母子相互作用体験実習

(医療技術短期大学部)

日誌

1998年8月1日～8月31日

8月6日 総長、トロント大学外2大学における教育・研究の現状に関する調査のためカナダを訪問(16日まで)

20日 討論集会「京都大学の教育を考える(第三回)ー学部教育から見た教養教育についてー」(21日まで)

訃報

上村 恵一 名誉教授



本学名誉教授上村恵一先生は、8月22日逝去された。享年81。

先生は、昭和16年京都帝国大学農学部農林経済学科を卒業、海軍に応召の後、同大学農学部副手、滋賀県立短期大学助教授、教授を経て同43年京都大学農学部教授に就任、農業計算学講座を担任された。昭和56年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

本学退官後は、昭和56年4月から同58年9月まで兵庫教育大学学校教育学部教授、同58年10月から同

63年4月まで石川県農業短期大学学長を務められた。

先生は農業経済学、中でも農業評価論に関する研究において優れた研究業績を残され、その発展に寄与されるとともに、地域農業論の分野において多大な貢献をされた。主な著書に『水田裏作経営の実証的研究』、『湖岸地域の都市化と湖の機能変化』等がある。

また、日本農業経済学会、日本農業経営学会、関西農業経済学会、農家簿記協会などにおいて、会長、副会長、理事等の要職を歴任された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院農学研究科)

津村 和志 大学院工学研究科助手



大学院工学研究科環境地球工学専攻助手津村和志先生は、8月29日逝去された。享年47。

先生は、昭和48年京都大学工学部衛生工学科を卒業後、同大学院修士、博士課程を修了された。昭和53年4月京都大学工学部衛生工学科助手に就任され、平成3年4月大学院工学研究科環境地球工学専攻の設置に伴い、同専攻に移られた。

先生は、下水処理場への計算機制御系の導入および計器管理方法の改善の研究、画像処理を利用した活性汚泥のモニタリングと制御の研究、自己回帰モ

デルによる活性汚泥プロセスの統計的制御法の確立の研究、下水処理プロセスのモデルベース管理モジュールの構築の研究などにおいて多大な成果を挙げられた。その実績に立って、平成3年「環境システム計測制御学会(EICA)」の設立から現在の発展にまで中心的な役割を果たされた。

また先生は、工学部および大学院工学研究科において学生の教育・指導に情熱を傾けられ、衛生工学の分野において多数の優秀な研究者を育てられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院工学研究科)

田中喜代子 ウイルス研究所遺伝子動態調節研究部門文部技官



ウイルス研究所遺伝子動態調節研究部門文部技官田中喜代子氏は、8月29日逝去された。享年56。

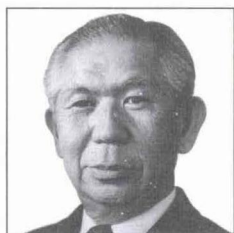
同氏は、昭和55年3月に理学部に就職され、同61年8月にウイルス研究所に配置換となり以来実験助手として業務に尽力、永年にわたりウイルス研究所遺伝子

動態調節研究部門の研究発展に多大の貢献をされた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(ウイルス研究所)

長尾 義三 名誉教授



本学名誉教授長尾義三先生は、9月3日逝去された。享年76。

先生は、昭和20年京都帝国大学工学部土木工学科を卒業、直ちに運輸省海運総局港湾局に奉職され、第三港湾建設局神戸調査設計事務所長、同省港湾局防災課長を経て同40年京都大学工学部教授に就任、土木工学科土木計画学講座、ついで交通土木工学科起終点施設学講座を担任された。昭和61年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

本学退官後は、昭和61年4月から平成4年8月まで、日本大学理工学部教授を務められた。

先生は土木工学、中でも土木計画学に関する研究において先導的な研究業績を残され、その発展に大きく寄与されるとともに、沿岸域工学の分野においても多大な貢献をされた。主な著書に『土木計画序論』、『港湾工学』等がある。

また、土木学会、日本計画行政学会、日本沿岸域学会、国際航路会議協会などにおいて、副会長、理事、支部長等の要職を歴任された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院工学研究科)

紹介

大学院農学研究科附属農場

大正12年農学部創立にともなって、翌13年北部構内に附属農場が設置されたが、狭隘のため昭和3年大阪府三島郡磐手村（現高槻市）に15haの土地を得て摂津農場が開設された。また、昭和4年には摂津農場の近くに古曾部園芸場が開設された。昭和36年には摂津農場が本場となり、北部構内の農場は京都農場となった。さらに、京都大学における一連の組織改革により、平成10年農学部附属農場は大学院農学研究科附属農場となり、大学院においては、農学研究科農学専攻に協力講座として設けられた生産管理科学講座（専攻分野名：植物生産管理学）を、また学部においては、生物生産科学科資源生物科学の植物生産管理学分野をそれぞれ担当することになった。

また、農学専攻の講座の一つである耕地生態科学に新たに設けられた栽培システム学専攻分野は、農場に主要な研究拠点を置き、農場における教育・研究の協力体制をとることになり、今後は農学専攻の各専攻分野と緊密な連携のもとに学部学生の実習教育及び大学院生の教育・研究を担ってゆくことになった。

学部学生の実習教育はこれまで3回生を対象に行ってきたが、教養科目の縮小、1、2回生への専門科目の拡大などにより、平成10年度からは2回生を対象とした農場実習（栽培技術論と実習）を行い、また、全学共通科目「農業体験実習」を夏期の集中実習として行い、同時に農業体験実習ゼミナール（1）及び（2）も行っている。

研究組織面では、従来からの農場教官の大部分は植物生産管理学分野に、一部は栽培システム学分野に配属となった。

植物生産管理学分野の主な研究を紹介する。この分野は平成10年度から大学院生を受け入れ、内容的にも多彩であるが、園芸作物を主な材料として研究を行っている。バイオテクノロジーに関連した研究では、果樹であるカキや観賞植物であるランなどを材料とした実験を進めている。カキは接ぎ木によって増殖されるため、自根による生育量や生産量は全く不明である。そこで培養により自根苗を作って圃場における調査を進めている。ランの一種であるシンビジウムは組織培養による増殖法が確立されて、現在大量の株が販売されるようになった。他方、花

は地味であるが、人気のあるパフィオペディルムはまだ増殖法が確立されていないが、花序培養による大量増殖の可能性を見出している。また、ハナショウブなどのアイリスでも、花器 (floral organ) の培養で大量増殖が可能であることを明らかにしている。主要な野菜の一つであるサトイモは、低温貯蔵が困難とされているが、貯蔵性に関する生理学的な研究を進めるなかで、低温よりも外生菌による腐敗の多いことが明らかになってきた。他方、圃場における収穫調整作業の省力化も検討している。コショウランは、今や一年中鉢物として流通するようになったが、それは開花調節法が確立されたためである。しかし、その生理学的な解明は未だ進んでおらず、光や温度といった環境条件との関連のもとで、花芽の出来る基本的な機構を解明しようとしている。

一方、栽培システム学研究分野では、主要研究課題のひとつにアジアにおける水田多毛作の研究がある。ここ数年、中国四川省南西部山間地域の水稲—小麦、水稲—野菜—トウモロコシの作付け体系における資源利用効率を上げている。現地では水稲の単収はすでに中国の平均を上回る水準に達しているが、食糧の地域内自給達成のために、水稲単収の更なる向上を目指している。そのためにハイブリッドライスなど多収性品種を導入し、稲作に偏重した水資源の利用、密植、多肥、多農薬を基本とする high input の稲作技術体系が益々促進される傾向にある。しかし、これまでの現地調査では水稲の育苗方法や田植えに関連した幾つかの個別技術に問題があり、それらの改善によって作付け体系としての収量が大幅に是正できる可能性がある。こうした指摘に対して理論的根拠を与えるべく、中国産多収性品

種の生産生態学的研究を進めている。

近年、農学の研究分野は細分化し、分子レベルで生命現象を解明しようとしているが、あくまでも農学の基本理念に基づいたものである。しかし、農学部学生のほとんどは農業に関する経験を欠いていることは否定できない。その点で附属農場における実習教育ならびに農業の現実を見据えた実践的な農学研究が必要であり、今後、益々その必要性は高まって行くものと思われる。また、食糧生産のみならず、みどりの形成、環境保全など農業のもつ多面的機能が見直されている。その意味で、附属農場は体験の場であると同時に、貴重な自然環境を地域にも提供しており、創設以来、地域社会とも深く結びついた存在であるといえる。全学共通科目「農業体験実習」の開講や、年1回ではあるが農場における公開講座の開催は、学生のみならず、地域社会の人々にも農場が本来持っている役割や意義を広く知ってもらう貴重な機会である。今後、附属農場が単に京都大学の教育・研究機関に留まることなく、広く地域に開かれた農場として発展して行くことを期待したい。



降りしきる雨の中での田植え実習

(大学院農学研究科附属農場)

文化交流

フロリダの自然とアメリカの活力

前川 覚

1997年3月から12月まで約10カ月間、文部省在外研究員としてフロリダ大学に滞在しました。今まで、2年間のフランス滞在をはじめ何度か海外渡航をしましたが、どういう訳かアメリカへ行く機会が無く、ぜひともアメリカへ行ってみたいと思っていました。今回幸いにも、低温磁性物理学の共同研究のため、旧知のMark MEISEL 教授がいるフロリダ大学へ行く機会を得ることができました。

渡米に際し、私は日本語版システムをインストールしたノートパソコンを持参しました。日本語でe-mailができるように、また日本語での書類作成が必要になるだろうということからでした。フロリダ大学で部屋をもらうとすぐにフロリダ大学のコンピュータにLAN接続させてもらい、フロリダ大学のアカウントをもらいましたが、日本との通信には京大のメールアドレスをそのまま使い、京大のサーバーから受信メールを受け取るという形で使いました。おかげで日本の人たちからは日本語で通信できると言われて喜ばれるとともに、宛先も京大のままということで、本当にアメリカに居るのかと言われました。研究関係、事務関係、自宅との通信等、送受信したメールの総数はなんと1,300通となりました。e-mailの発達で通信がとても便利になりましたが、逆に、外国へ行っても日本から逃れにくくなりました。しかしまた逆に、簡単に通信できるから気楽に外国へ行けるということもできるでしょう。

フロリダ大学では低次元磁性体や競合系磁性体の研究を行いましたが、ここでは、フロリダで見た自然とそこでの生活から深く印象に残ったことをご紹介します。

フロリダ大学のあるゲインズビルは、フロリダ半島の付け根あたり、西のメキシコ湾へも東の大西洋へも車で1時間あまりのところであり、緯度的には日本の屋久島あたりになります。フロリダでは山を見ることができず、大平原や大森林、なだらかな丘陵地帯がつづき、その中に多くの湖沼が点在しています。

フロリダ大学は京大創設に遅れること8年、1905年に設立されたフロリダ州で最も古く、最も大きな総合大学とのことで、現在、学部生約3万人、大学

院生7千人、教職員4千人を有しています。京大のそれぞれの人数、1万4千人、7千人、5千人と比べると学部生は倍ほどですが、院生、教職員数はほぼ同規模であることがわかります。構内には広々とした芝生が広がり、たくさんのリスが走り回り、心を和ませてくれました。

フロリダの湖沼や河川にはフロリダ大学のシンボルでもあるワニ（アリゲーター）が生息し、大学内の池にも数匹生息していました。動物園で見るアリゲーターはお腹がポテポテに膨れ、1日中じっとしていますが、自然のアリゲーターはそれなりに動いてくれ、恐怖心も少し刺激され、見ていて退屈しません。いつ行っても5、6人の家族連れやカップルが見物に来ており、地元の人達にとってもやはり見応えのある対象のようです。池に垣根はなく、平生は悠然としてのろそうなアリゲーターですが、瞬発力があり、4～5m以内は危険なようで、犬や幼児が襲われることもあるとのこと。郊外にある大学の野外レクリエーション施設の大きな池では50m四方ほどだけが柵で囲まれ、そこが人間用の遊泳場になっていました。

ゲインズビルの南にはペイネス・プレーリーと呼ばれる大平原が広がり、州の自然保護区になっており、広大な大自然を楽しむことができました。昔はこの大平原にアメリカンバッファローが居たそうですが、今はビジターセンターの剥製でしか見ることができません。地平線の彼方まで広がる草原、飛び交う野鳥、スペイン人開拓者が苦労したであろう巨大な木々や灌木の茂る原生林など自然あふれるアメリカをうらやましく思っていました。帰国後、環境ホルモンで奇形が見つかったのはフロリダのワニが最初だと聞き、信じ難い思いでした。

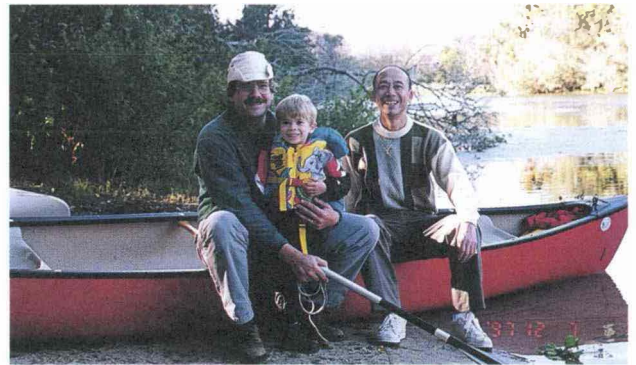
フロリダはレジャーとしてカヌーが盛んです。最初、カヌーに誘われたときには急流下りかと思いき、このなだらかなフロリダに急流があるのかと意外な思いがしました。予想は大外れ、川は原生林の中のほとんど流れのない川でした。前後2人乗りのカヌーで、甲羅干しをするたくさんの亀やカワウソ、見慣れぬ水鳥、まれにはワニを眺めながら、自然のままの穏やかな川をジャングル探検のようにゆったり

と進んでいきます。日本では全く味わえない心安らぐ正にリラックスできるレジャーでした。川を上流に向かって進んで行くと、なんと同じ川幅のまま突然川が行き止まりで無くなってしまいます。まさにここが川の起点で、川底から地下水が湧き出て川が始まっているのです。この水は北隣ジョージア州の山岳地帯から約500kmも地下を流れて湧き出しているとのことです。フロリダにいる10ヵ月間、真夏の毎日1時間程の夕立を除けば、いわゆる雨天は5～6日しかなく、フロリダの水は豊かな地下水でまかなわれているとのことです。

7月4日はアメリカ独立記念日です。ゲインズビルの町でも盛大に前夜祭が行われ、とても印象的でした。大学構内の芝生のグラウンドで夕方から野外オーケストラが演奏され、数千人の学生や家族連れが、教会ボランティアのコーラや屋台のハンバーガーを食べながら演奏を楽しんでいました。やがて日が暮れると盛大に花火が打ち上げられ始めました。軽快な耳になじむ行進曲を聴きながら、芝生に寝転がって次々と打ち上げられる華麗な花火を見ていると不思議と心躍り、全身に活力がわき上がってきました。翌、独立記念日当日は狙い定めてのアメリカ火星探査機の火星到着。ボストンでの記念式典とともに火星到着がマスコミで大々的に報じられ、独立記念日を一段と盛り上げる演出は大成功でした。この独立記念日の演出のみならず、アメリカではいたるところでまだまだ旺盛なフロンティア精神とアメリカンドリーム、そしてそれを鼓舞する雰囲気を感じ、発展への活力を感じ、これが多くのノーベル賞学者やビル・ゲイツを生み出す土壤なのだと感じました。それに比べ、日本から入ってくるニュースは

猟奇的殺人事件や不正行為ばかり、しかもそれらを報じるマスコミは関係者がいかに悪者であるか、という報道ばかりで、互いに人をたたき合って喜んでいる風潮と閉塞した社会を感じずにはおれません。努力を賞賛し、成功をとともに喜ぶ雰囲気日本の社会はもっと作るべきでしょう。

フロリダ大学内には立派な自然史博物館と美術館がありました。そこにはフロリダの地形の成り立ち、化石、巨大な鯨の骨、また開拓史やインディアンの風俗、現代美術などが展示され、にぎわっていました。また、各地に自然史博物館、科学技術博物館、コンピュータ技術展示館等がありました。これらのものを見ていると教科書からは得られない、自然の神秘さ、科学の偉大さ、先人の努力を感じ、見る者に夢と希望を与え、努力する意欲を沸き立たせてくれます。京大にもやっと博物館ができました。理系離れの問題のみならず、人々、特に若者にもっと知的好奇心を刺激するものを身近に用意し、夢と希望と努力の喜びが感じられる環境を作っていくことが必要であるとつくづく感じました。



カヌーを楽しむMEISEL教授と筆者

(まえがわ さとる 大学院人間・環境学研究科教授)

保健コーナー

生活習慣病を考える ―ヒトの進化と糖尿病―

1. はじめに

ブドウ糖はヒトの脳や血球にとって必須のエネルギー源である。したがって、ヒトの体内では血中のブドウ糖(血糖値)が下がりすぎないように常に一定(通常70-100mg/dl)に保つための機構が存在

している。しかし、逆に血糖が上昇しすぎた状態(空腹時に140mg/dl以上もしくは食後200mg/dl以上)を糖尿病という。最近、糖尿病に関して「ヒトの進化」の側面からも考察されてきており、生活習慣病を考えるうえで参考にさせていただきたい。

2. ブドウ糖の代謝とヒトの進化

人類は、農業が発達する前の狩猟の時代には、しばらくの絶食の期間の後にはじめて獲物を得ることができるというような環境下にいた。このような時代を生き残るためには、少ない食事で血糖の高くなりやすい人間のほうがエネルギー効率の上からも生き延びるのに都合がよかったと考えられる。さらに長期間の飢餓時には脂肪細胞は蓄えていた中性脂肪を遊離脂肪酸として放出し、これが心筋や骨格筋への重要なエネルギー源となる。そのためにも脂肪細胞に中性脂肪を蓄えやすい（太りやすい）遺伝素因を持つ個体のほうが生き残りやすかったであろう。

このように、飢餓の時代に生き抜くために血糖恒常性を保ちエネルギーの無駄をなくすような形質を持った個体が維持してきた遺伝子のことを「儉約遺伝子 (thrifty gene)」という。

3. 儉約遺伝子と糖尿病

この儉約遺伝子を持つことで生き抜いてきた人類が、現代社会のように食物が常に一定供給されるような環境下におかれたのは、長い人類史上で今世紀になってからのことにすぎない。コンビニエンスストアや自動販売機のおかげで食べたいと思うものが24時間いつでも手に入るようになった。このために爆発的に糖尿病患者が増えつつある。糖尿病のうち一般に多いのは、成人以降にとくに過食、肥満、運動不足で発症するインスリン非依存性糖尿病 (NIDDM) である。このNIDDMには少なくとも二つの遺伝素因、すなわち膵臓からのインスリン分泌と末梢でのインスリンの効き具合(インスリン作用)の両者に何らかの遺伝的な欠陥が存在すると考えられている。飢餓の時代に生き抜くために引き継がれた「儉約遺伝子」が豊かな現代社会のなかではむしろ病気発症の誘因「催糖尿病遺伝子」となり、糖尿病が増加していると考えられる。

4. 儉約遺伝子の獲得

それでは、実際どのようにしてこの「儉約遺伝子」すなわち「催糖尿病遺伝子」が出現してきたのであろうか。ヒトにおいて、遺伝子組替えがおき(突然変異)その形質が選択されて、集団の中でその存在が明らかになるのには5千~1万年かかるともいわれている。それゆえ儉約遺伝子の由来に対する答えは1万年前に終わった最後の氷河期に見つかるはず

である。最後の氷河期以降、人類にとって特に大きく変わった栄養上の変化は、炭水化物が食物として利用できるようになったことである。これには氷河期以降の気候による農業の発達によるところが大きいと考えられている。糖尿病のうち、ヨーロッパには一般にNIDDMが少ないといわれている。その理由として、ヨーロッパ人が初めて農業を採用した民族の一つであり、最も早く儉約遺伝子を持つ必要性がなくなったためこの遺伝子が選択的に保存されなかったという説を唱えている学者もいる。

5. 糖尿病の遺伝素因

上記のような話をしていると、患者さんからよく「糖尿病は遺伝するかどうか」と聞かれる。糖尿病の発症には、遺伝(体質)が重要な役割を果たしていることは確かである。NIDDMの患者さんの半数では家族に糖尿病がある。一卵性双生児の調査でも片方にインスリン非依存性糖尿病がある場合は実に80%の確率で他方にも糖尿病が発症する。

しかし、糖尿病そのものが遺伝するのではなく、糖尿病になりやすい体質(疾患感受性)が遺伝するのであって、これだけで糖尿病が発症するのではない。糖尿病が増え続けている理由は、それを増やしている原因が現代社会にあると考えられる。「儉約遺伝子」の考えによれば本来は現代人の多くが発症素因を持っており、この上に食べ過ぎ、運動不足、肥満、ストレス、アルコールの飲みすぎなどが加わってはじめて糖尿病が発症するのである。しかし、これらの環境因子をコントロールすることで、たとえ糖尿病になりやすい体質があっても、発症は防ぐことができる。この考えは他の生活習慣病である動脈硬化(脳血管障害や虚血性心疾患)、高血圧、癌等にもあてはまり、これを機会にあらためて個々の生活習慣を見直し、現代社会をより健康に生きていただきたい。

(医学部附属病院 西村治男)

公開講座

大学院エネルギー科学研究科公開講座 エネルギーと社会・環境・科学

大学院エネルギー科学研究科では来る11月7日（土）、14日（土）の両日に、広く一般市民を対象とする「京都大学大学院エネルギー科学研究科公開講座」を、下記のとおり開催します。

11月7日（土）

「機械が人に歩み寄るーヒューマンインタフェース研究最前線ー」
「21世紀における核融合エネルギーの役割」

吉川 榮和 教授
井上 信幸 教授

11月14日（土）

「物質の第4状態…プラズマ」
「人類の未来と宇宙開発」

前川 孝 教授
石井 隆次 教授

- ◆時 間 午後1時00分～4時00分
- ◆会 場 京都市左京区吉田本町 京都大学工学部 物理系校舎
(※自家用車での来場はご遠慮ください。)
- ◆定 員 80名
- ◆受講料 4,400円（テキスト代を含め、全講義を通しての受講料で消費税を含みます。)
- ◆申込方法 現金書留または受講料直接持参によりお申し込みください。
現金書留の場合は以下のものを同封してください。
 1. 受講料
 2. 住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記した用紙（複数の人数の申し込みの場合は1人1枚必要。)
 3. 返信用封筒（表側に宛名、郵便番号を記し、80円切手を貼ってください。受講証、領収証、会場案内図等をお送りします。)
- ◆申込期間 10月12日（月）～10月30日（金）（※現金書留は必着）
- ◆持参の場合の受付時間 平日午前10時～午後3時（※正午～午後1時を除く。)
- ◆テキストは公開講座当日、会場の受付でお渡しします。
- ◆本講座は「京の府民大学」対象講座です。

申込先及び問い合わせ先：〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学工学部等総務課庶務掛 公開講座係
電 話：075-753-5000・5005（工学部8号館1階西側）
F A X：075-753-5065

大学院教育学研究科公開シンポジウム (大学院重点化改組記念行事)

意味の生成と転換—子ども・学校・社会—

以下の要領で公開シンポジウムを開催しますので興味のある方はお申込みください。

日 時：平成10年11月14日（土） 14：00～17：00

場 所：都ホテル「山城の間」（京都市東山区三条蹴上）

21世紀を目前に社会は騒然としておりますが、京都大学大学院教育学研究科では、今回の大学院重点化を記念して、「意味の生成と転換—子ども・学校・社会—」と題して、公開シンポジウムを開催致すことになりました。その内容は、子どもが生成し発達する場としての学校の問題を教育人間学の立場から、そしてその子ども自身の内部での発話者としての私の生成についてを臨床心理学の立場から、及び社会において『弱者』と呼ばれてきた人々の昨今の転換の状況とその意味について教育社会学の立場から、いずれも熱く論じたいと考えています。皆様方の奮ってのご参加を希望致します。

パネリスト

- | | |
|--------------|---------------------------------------|
| 大学院教育学研究科助教授 | 矢野 智 司（教育人間学）
「子どもが生成し発達する場としての学校」 |
| 大学院教育学研究科助教授 | 伊藤 良 子（臨床心理学）
「発話者としての私の生成」 |
| 大学院教育学研究科助教授 | 岩井 八 郎（教育社会学）
「『弱者』の転換とその意味」 |

指定討論

- | | |
|-----------|-------|
| 中日新聞社論説委員 | 林 寛 子 |
|-----------|-------|

司 会

- 大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター長
教授 山中 康 裕

○聴講無料

○定 員：70名（先着順）

○申込方法：はがき又はFAXにて氏名、職業、連絡先を記入のうえお申込みください。

○申 込 先：606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学教育学部庶務掛
TEL (075) 753-3003, FAX (075) 753-3025

○申込締切日：平成10年11月5日（木）

総合博物館公開講座 「人間と自然の共生をめぐって」

博物館の研究活動は自然界との「つきあい」である。本公開講座では、当博物館スタッフが研究活動を通じて得た知識をもとに人間と自然の共生について語り、博物館の研究活動を一般市民に広く知ってもらうことを目的とする。

下記要領で公開講座を開催しますので、受講希望の方はお申し込みください。

記

1. 期 間 平成10年11月14日・21日・28日、12月5日（各土曜日 計4回）
2. 時 間 各回 午後1時30分～午後4時00分
3. 場 所 理学部2号館第一講義室
(百万遍東約300m, 南門入る左側レンガ建物。自家用車によるご来場はご遠慮ください。)
4. 定 員 80名
5. 受 講 料 5,400円（全講義を通しての受講料です。納められた受講料は返金出来ません。）
6. 申込方法 現金書留または受講料直接持参によりお申し込みください。
現金書留の場合は下記のことを同封してください。
 1. 受講料
 2. 住所・氏名・年齢・職業・電話番号を記入した用紙。（形式は問いません。）
 3. 返信用封筒（表側に宛名・郵便番号を記入し80円切手を貼ってください。受講証・領収書等をお送りします。）
7. 持参の場合の受付時間 平日午前10時～午後4時
8. 申込期間 10月12日（月）～10月30日（金）
9. 申込先及び問い合わせ先
〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館 ☎075-753-3274
10. 演題及び講師

11月14日	〔日本の森林に学ぶー21世紀の人間と自然の共生〕	館長 河野昭一
	日本の森林相は、コスト至上主義の森林経営、乱開発、また酸性雨などにより21世紀初頭に壊滅的崩壊すら起こしかねない危機的状況にある。しかし、つい最近まで日本の森林には地域ごとの個性を熟知した林業の伝統があり、手厚く育み、その果実をいただくという思想により保全されてきた。このような日本人と森林との関わり方の伝統を手本に21世紀の人間と自然の共生のあり方を探る。	
11月21日	〔帰化哺乳類と人間活動〕	助手 本川雅治
	人間によって持ち込まれた帰化哺乳類が最近になって日本で急増している。それらが在来種や人間生活に与える問題を取り上げることで、人間と哺乳類の共生の道を探る。	
11月28日	〔多自然型川づくり工法の実際〕	助教授 城下 莊平
	治水や利水のみを考慮した従来の川づくり工法を見直し、自然との調和を考慮した多自然型と称される新しい川づくり工法が近年、試みられてる。その実施例を写真によって紹介する。	
12月5日	〔魚と、どうつきあうか〕	教授 中坊 徹次
	魚は漁業をとおして古くから私たち人間との関わりが深い。最近では釣り、ダイビング、室内アクアリウムの普及で益々私たちの身近な存在になっている。このような中で、どうすれば魚と永く付き合えるのか、について述べる。	

防災研究所公開講座（第9回） “災害の予知と予測Ⅱ” —その現状と将来の展望—

防災研究所は、昭和26年に設立以来、自然災害に関する基礎研究及び災害対策等に寄与するための応用研究を行ってきましたが、平成8年度より全国共同利用研究所として新たな出発を図り、災害の学理と防災のための総合的な方策について研究を推進しています。

当研究所では、災害に関する研究成果を広く紹介するため平成2年度から公開講座を実施していますが、昨年度に引き続き「災害の予知と予測」を基本テーマとして、その現状と将来の展望に情報の伝達や災害マネジメントを加えて紹介いたしますので、一般市民をはじめとして災害に関心をお持ちの方々のご参加を歓迎します。

1. 講座内容

災害による被害を軽減するためには、災害の発生を予知あるいは予測することが重要です。土石流、津波、火山噴火及び都市の地震災害の予知・予測の現状と将来の展望を紹介し、その情報の伝達と災害のマネジメントを加えて、パネルディスカッションを行います。

2. 実施期間・場所

期間：平成10年11月30日（月）

場所：大阪YMCA会館（大阪市西区土佐堀1-5-6）2階ホール

3. 受講料 5,400円（テキスト代及び消費税を含む。）

4. 募集人員 250名

5. 申込方法

往復ハガキにて、住所（連絡先）、郵便番号、氏名、年齢、職業（勤務先）、電話番号を明記し、また、返信ハガキに宛名（住所、郵便番号、氏名）を記入の上、申し込んでください。

申込みは先着順とし、同ハガキにて受講手続きの通知をします。これにより所定期日までに受講料を郵便振替でお振り込みください。（当日、現金による受付は一切しません。）

6. 申込先及び問い合わせ先

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所 総務課研究助成掛 電話 0774-38-4010

7. 申込締切日 平成10年10月27日（火）

8. 申込結果の通知 10月30日（金）までに各申込者に通知します。

講 義 日 程

11月30日（月）

9：30～10：00	開講の辞	防災研究所長	今本 博健
10：00～11：00	土石流災害から身を守る	—土石流バザードマップに基づく避難システム—	助教授 中川 一
11：00～12：00	津波災害の予測とソフト防災	—災害情報の活用と避難—	教授 河田 恵昭
13：00～14：00	火山噴火災害から身を守る	—噴火予知と火山情報—	教授 石原 和弘
14：00～15：00	地震災害から都市を守る	—建築物の性能検査制度と性能保証制度—	助教授 鈴木 祥之
15：15～16：45	パネルディスカッション	—予知・予測の現状と将来について—	
		基調講演 大阪府副知事	金盛 弥
		コーディネーター	教授 植田 洋匡
		パネラー	助教授 中川 一
		〃	教授 河田 恵昭
		〃	教授 石原 和弘
		〃	助教授 鈴木 祥之

話題

国立七大学総合体育大会で総合準優勝，近畿地区国立大学体育大会でも男子総合で準優勝，女子総合も3位に入賞！

第37回国立七大学総合体育大会が，7月18日（土）の開会式を挟み，昨年12月13日（土）のアイスホッケーを皮切りに8月9日（日）の体操まで，35競技種目にわたり九州大学の主管のもとで開催された。

本学は，前年度に総合優勝を果たしており，2連覇を目指し各競技種目で健闘した。ゴルフの4連覇達成，馬術の3連覇達成など本学の奮闘が目立ったが，総合では，惜しくも僅差で主管校の九州大学に優勝杯を譲り，準優勝となった。

また，京都工芸繊維大学の主管で開催された第36回近畿地区国立大学体育大会では，5月10日（日）のラグビーから8月29日（土）の弓道まで，29競技種目において熱戦が展開された。

本学は，前年度，男女とも総合で3位までに入賞

できなかったが，今年度は，弓道男女の優勝など，全競技種目にわたって奮闘し，男子総合で準優勝，女子総合も3位と大健闘した。

なお，国立七大学総合体育大会の成績結果は，下表のとおりである。



国立七大学総合体育大会開会式恒例の応援団演舞
—本学応援団—

第37回国立七大学総合体育大会成績表

競技名	北海道大学		東北大学		東京大学		名古屋大学		京都大学		大阪大学		九州大学	
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
アイスホッケー	①	10	②	8	④	4	⑥	2	③	6	⑦	1	⑤	3
航空	—	—	⑤	3	②	8	①	10	④	4	⑥	2	③	6
馬術	●	6	⑤	2	⑥	1	●	4	①	8	—	—	④	3
硬式野球	⑥	2	④	4	③	6	⑤	3	②	8	⑦	1	①	10
準硬式野球	③	5	⑤	2.5	①	9	①	9	⑦	1	⑤	2.5	③	5
柔道	⑤	2.5	①	10	—	—	②	8	③	5	⑤	2.5	③	5
少林寺拳法	④	4	⑥	2	⑤	3	⑦	1	②	8	①	10	③	6
ソフトテニス(男子)	③	6	⑥	2	④	4	①	10	⑤	3	②	8	⑦	1
ソフトテニス(女子)	①	10	—	—	⑤	3	③	6	④	4	②	8	—	—
バレーボール(男子)	③	6	②	8	⑥	2	①	10	⑦	1	⑤	3	④	4
バレーボール(女子)	③	6	④	4	⑥	2	①	10	⑦	1	②	8	⑤	3
硬式庭球(男子)	⑥	2	④	4	①	10	⑦	1	②	8	③	6	⑤	3
硬式庭球(女子)	⑤	3	④	4	⑦	1	②	8	⑥	2	③	6	①	10
バスケットボール(男子)	⑦	1	④	4	③	6	⑤	3	②	8	①	10	⑥	2
バスケットボール(女子)	②	8	④	4	—	—	⑥	2	⑤	3	③	6	①	10
空手道	⑦	1	⑥	2	⑤	3	④	4	①	10	③	6	②	8
剣道(男子)	⑤	3	⑥	2	③	6	⑦	1	②	8	④	4	①	10
剣道(女子)	②	8	⑦	1	⑥	2	③	6	⑤	3	④	4	①	10
卓球(男子)	⑦	1	⑤	3	③	6	①	10	⑥	2	④	4	②	8
卓球(女子)	—	—	②	8	④	4	①	10	③	6	⑤	3	⑥	2
水泳	①	10	④	4	⑤	3	②	8	③	6	⑥	2	⑦	1
ヨット	③	6	④	4	⑦	1	⑥	2	①	10	⑤	3	②	8
陸上(男子)	⑦	1	②	8	①	10	④	4	③	6	⑥	2	⑤	3
陸上(女子)	①	10	⑤	3	⑥	2	③	6	②	8	⑦	1	④	4
ハンドボール	⑤	3	④	4	⑦	1	①	10	⑥	2	②	8	③	6
ゴルフ	④	4	⑤	3	⑦	1	③	6	①	10	⑥	2	②	8
自動車	⑤	3	②	8	⑦	1	④	4	⑥	2	③	6	●	10
弓道(男子)	⑥	2	③	6	①	10	⑦	1	⑤	3	●	4	②	8
弓道(女子)	⑤	3	④	4	②	8	⑦	1	①	10	⑥	2	③	6
フェンシング	—	—	①	8	②	6	—	—	③	4	④	3	⑤	2
洋弓	④	3	⑤	2	①	8	—	—	③	4	⑥	1	●	6
陸上ホッケー	①	6	—	—	④	2	—	—	⑤	1	③	3	②	4
バドミントン(男子)	④	4	①	10	⑥	2	⑤	3	②	8	⑦	1	③	6
バドミントン(女子)	①	10	③	6	⑦	1	④	4	⑥	2	⑤	3	②	8
体操	④	4	②	8	①	10	⑦	1	⑤	3	③	6	⑥	2
総合得点	153.5		155.5		146		168		178		142		191	
総合順位	5位		4位		6位		3位		2位		7位		1位	

お知らせ**平成10年度附属図書館秋季展示会
—古地図が示す世界認識—
室賀信夫コレクション古地図展の開催**

附属図書館では、毎年秋、その所蔵資料を中心にした展示会を開催し、本学教職員や学生だけでなく、学外の市民にも好評をもって迎えられ、多数の参加を得てきました。

今年度は、室賀コレクションの古地図を展示します。室賀コレクションは、京都帝国大学文学部助教授（地理学）であった故室賀信夫先生（1907～1982）旧蔵の古地図、地理学関係資料からなり、1996年度に附属図書館に受け入れられたものです。

今回は、約1,000点におよぶ古地図の中から、古地図が示す世界認識を主要なテーマに、約50点を精選し、「蝦夷地の地理像と新訂万国全図」、「ヨーロッパ製アジア・日本図」、「マテオ・リッチ系・蘭学系世界図」、「仏教系世界図の展開」及び「中国系世界図」に分けて展示・解説し、これに「室賀信夫と古地図研究」のコーナーを設けることとしています。

この展示会に関連して、総合人間学部 松田 清教授の記念講演会も開催いたしますので、ご来聴ください。

展示会

期 間：1998年10月31日（土）～11月15日（日）

*11月3日（火）は休館します。

時 間：午前10時～午後5時（入場は午後4時30分まで）

入場料：無料

会 場：京都大学附属図書館展示ホール（3階）

京都市左京区吉田本町

（問い合わせ先：附属図書館情報サービス課 TEL 753-2626）

記念講演会

演 題：洋学からみた室賀コレクション

講 師：松田 清（総合人間学部教授）

日 時：1998年11月6日（金） 午後2時～4時

入場料：無料

会 場：京都大学附属図書館大会議室（4階）

（問い合わせ先：附属図書館情報サービス課 TEL 753-2626）

（附属図書館）